

もしも根圏ができたなら

～ぶどう根圏制御栽培で産地の若返りを図る～
県北農林事務所農業振興普及部

背景・ねらい

県北地区のぶどうは、生産者の高齢化や産地の規模縮小が進む一方で、シャインマスカットの需要拡大等による市場価値上昇などにより、新規栽培希望者が増加している。しかし、ぶどう栽培の既存の仕立てはせん定等の技術難易度が高いうえ、収穫、成園まで時間を要するため、新規栽培に取り組みにくい。そこで、新技術（盛土式根圏制御栽培）を活用して新規就農者を増やす。



○盛土式根圏制御栽培（以下、「根圏」という）

・培地を遮根シートで覆い、生育に合わせ養水分を調整する栽培方法

これだ！！

【メリット】

- ・栽培2年目から収穫できる！
- ・直線的な樹形により省力化！
- ・短梢せん定によりせん定が安易に！
- ・土壌条件にかかわらず栽培できる！



福島県のスマート農業等技術に設定



もしも根圏ができたなら新規希望者がぶどうに取り組みやすい！

活動内容

○実証ほを設置 (H31)

- ・新たにぶどうに取り組みたい生産者の園地を選定
- ・管内生産者の需要の高いシャインマスカットや黒系ぶどうを導入
- ・スマート農業に関連する事業を活用し運営

○協議会を設置 (H31)

- ・市、JA、関係企業と連携し協議会を設置
- ・実証成果、栽培者支援等の情報共有の場として活用
- ・実証成果を検討、普及性を評価



…導入した結果、様々な問題が発生

裂果

初期コストが高い

着色が不安定

高温による葉の萎れ

日焼け

強風によるハウス被害

ぶどうの根圏での就農は難しいかも…

JA担当者

生産が不安定だし普及は難しいのでは

新規栽培者

やっぱり根圏はできないかも



普及組織が先頭に立ち、現地の課題解決に向け改めて普及指導活動を開始

普及活動を展開

1 生産の安定化

○巡回指導



- ・栽培のポイントとなる時期にぶどう栽培の基本作業、水管理方法等の個別指導

☞栽培者の技術が向上

○調査・観測



- ・土壌水分や気温等の環境データ観測
- ・栽培性、収量、果実品質等を調査

☞生理障害の要因解明

○現地検討会・意見交換会



- ・水と施肥管理など検討
- ・根圏未導入者も参加誘導

☞課題の検討や情報共有

○経営評価

前年度モデル		経営評価	
前年度	今年度	前年度	今年度
生産量 (kg)	1,000	1,000	1,000
販売価格 (円/kg)	100	100	100
収入 (円)	100,000	100,000	100,000
経費 (円)	80,000	70,000	70,000
利益 (円)	20,000	30,000	30,000

- ・実証ほ実績における経営収支を評価
- ・補助事業や制度資金の活用

☞定植3年目から農業所得が黒字

2 新規栽培者の確保・育成

○新規就農者への誘導



- ・興味のある生産者が多く、相談に応じながら導入推進

☞新規導入者の確保

○生産者間の交流



- ・管轄内外にかかわらず導入者と頻りに意見交換
- ・生産者間の技術研鑽、優良事例の情報交換

☞新規生産者のグループ化

活動成果

○新規栽培者の増加

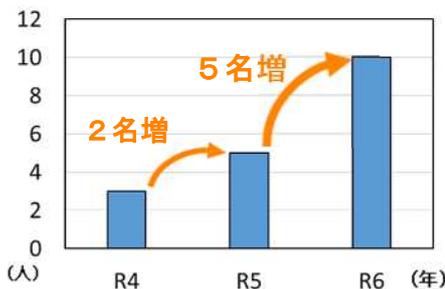


図1 根圏制御栽培導入者数の推移 (管内全導入者数)

- ・20代～50代の新規栽培者7名を確保 (R4～R6)
- ・導入面積43 a (R4) から126 a (R6) に拡大

○初期収量の確保

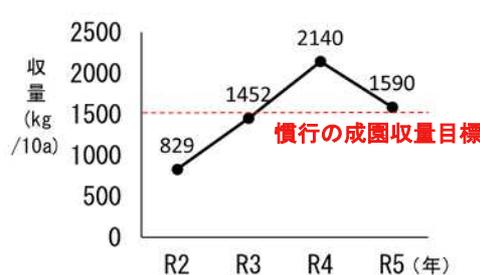


図2 実証ほの収量の推移

- ・実証ほは、栽培2年目 (R2) から収穫でき、3年目 (R3) には慣行に近い収量を確保
- ・実証ほ以外の栽培者2名が2年目で収穫、出荷を開始

○技術の普及



- ・高品質な果実、栽培が難しい品種を生産開始
- ・自主的に生産者同士が現地視察や意見交換を実施

今後の活動・方向性

- 品種ごとに生育が異なるため、品種に合わせた養水管理の検討を進める。
- 環境データを蓄積し自動かん水の精度を向上させ、さらに生産の安定、省力化を目指す。
- 新規生産者グループの活動支援と新規栽培者への技術普及により、産地の維持拡大を図る。